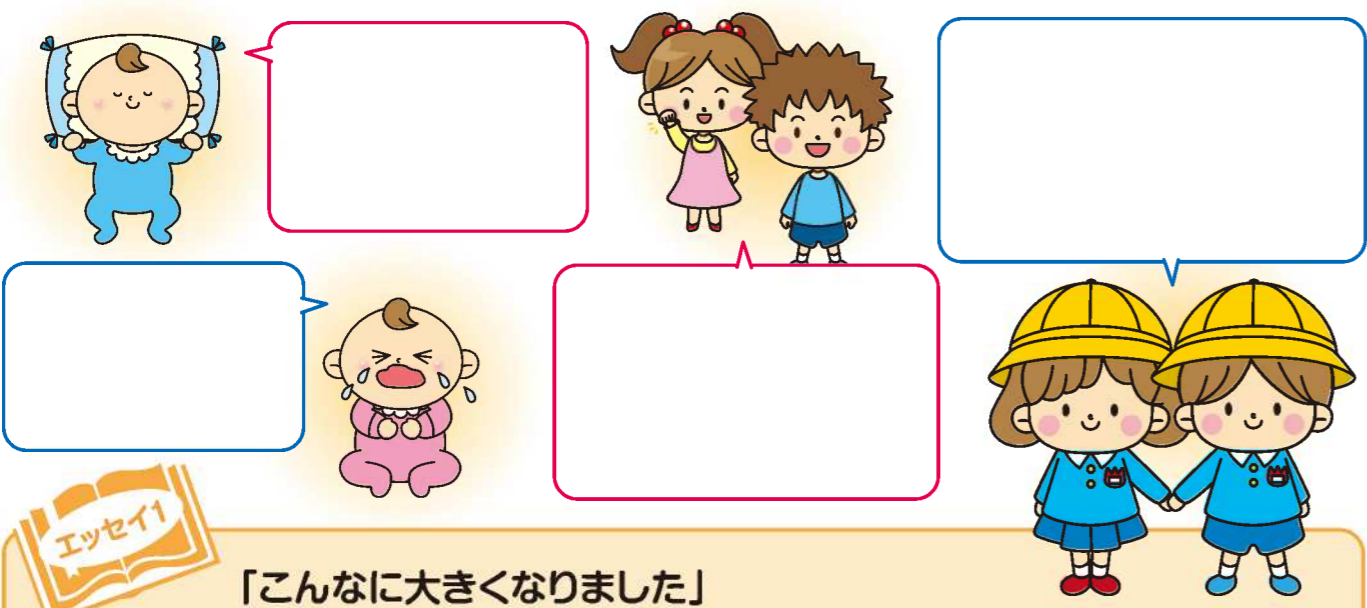


おおいた親の学び プログラムワークシート



1 子育てを振り返ってみましょう

ワーク 1 次のイラストを見て、このころの子どもの思い出を書いてみましょう。



エッセイ1

「こんなに大きくなりました」

あんなに小さく、一人では何もできなかった我が子も、小学生になりました。生まれた時は50センチに満たなかった身長も、1メートルを超えるほど大きくなりました。私の息子は幼稚園に通い始めたころ、朝一人で園舎に入るときに泣きそうになっていました。けれどもそんな姿がうそのように、ランドセルを背中に毎朝玄関を飛び出していきます。歩く姿も一人前になってきました。生意気なことも、時々言うようになりました。でも、身体も心も、まだまだ成長の途中です。

小学校に通うようになり、子どもの生活も学校生活を中心に回り始めています。学校での学習活動、集団生活、さまざまな体験活動の中で、子どもは日々成長していることを親である私たちは忘れてはいけません。身体の変化は分かりやすいものです。けれども、目に見えない心の成長や変化は気づきにくいものです。時々、我が子の成長を振り返ってみて、心身の成長に目を向けていきたいものです。

(小学1年生 保護者)

ワーク 2 子どもの誕生からこれまでの成長を振り返ってみて、思っていたよりも大変だったのはどんなことですか。

ワーク 3 「うちの子も成長したな。」とあなたが感じるのはどんな時ですか。

ワーク 4 今、子どものことで気になっていることは何ですか。

ワーク 5 子どもの成長を振り返ってみて気づいたことや、これから心掛けようと思ったことを書いてみましょう。

エッセイ2

「心の鏡」

子どもを叱ったり、夫婦げんかをしたり、他人の話をしたりするとき、自分がどんな表情をしているか、我が顔を想像できる人はどれだけいるでしょうか。

ほめるときとは違い、叱るときは声は大きく荒く、とげとげしく、目は刺すように威圧的で、自分でもこんな顔になるのかと思うほどいやな表情になることを、知っている人はあまりいません。一度鏡の前で、子ども、友達、夫婦で言い合った言葉遣いをそのままに、鏡の中の自分に再現してみてください。鏡の中の自分の姿を見ることは、自分という人間を客観視するにはとてもよい方法であり、鏡は効果的な道具です。

そしてこの私を、子ども、夫、妻、友人、地域の人たちはしっかりと目で、耳で、身体全体の感覚で見ており、評価していることを忘れないようにしましょう。

人は、自然界の全てのものを気遣うような優しく温かい言葉を使うとき、不思議なくらい表情は温かく、生き方の美しさが品格となって全身からにじみ出てくるものです。言葉も言葉や音声にふさわしく優しい丸みをおび、笑みもこぼれてきます。

私たちは、相手を励まし元気づける力を「言葉や目」が持っていることを心に留め、人として身につけるように努力したいものです。それが大人になるということだと思います。

私たちがよりよい親、大人、人間になるよう謙虚で真摯な態度で日々の生活をし、ふと後ろを振り返って見たときそこに我が子がいる、そんな親子関係でありたいものです。子どもは紛れもなく大人の後ろ姿を見ながら、ついて来てくれているのですから。

(元幼稚園 教諭)

2 一人じゃないよ、仲間がいるよ



ワーク 1

子育てあるあるトークをしましょう

次の質問に答えてください。

同じことを発表する人がいたときは元気よく「あるある！」とってください。

1. 子育てで楽しいことは？

2. 子育てのことで聞いてみたいことは？

3. 子どもの好きな食べ物は？

4. 子どもの苦手な食べ物は？

5. 子どもの好きな遊びは？

6. 今のあなたが一番の趣味は？

8. 子どもについて
しまう一言は？

7. 子どもが生まれてから今までで、一番うれしかったことは？



エピソード

娘が小学校に入学し、初めてのPTAの時のことです。

娘は私の仕事の関係で、家から離れたところにある保育所に通っていたので、近所に一緒に遊べる友達はいませんでした。親子ともに不安な気持ちいっぱい入学したわけですが、幸いなことに娘にはすぐに友達ができました。

しかし、母親の私は、フルタイムの仕事をしている上に、娘の小学校入学を機に引越しをしたばかりで、子どものことや学校のことを相談できる人が近所にはいませんでした。「友達を作りたい！学校のこと、子育てのことを話せる仲間がほしい！」そんな思いでいましたので、PTAの学級懇談会に初めて参加した時の緊張感は今でも忘れられません。以前から知り合いのお母さん同士で並んで授業を見ている様子や、学級懇談が始まる前に楽しそうに話しをしている様子を見て、自分だけが一人ぼっちであるような寂しさを感じてしまいました。そして、この日は、PTAの役員決めの話し合いが予定されていました。上の子どもの関係で、既に子ども会の役員を引き受けている人もいようので、役員になる確率は思ったよりも高いことも分かりました。授業参観が終わると、役員決めの話し合いが始まります。役員になったらどうしようかという不安は膨らみ、気持ちは沈みがちでした。「もう帰ろうかな。授業参観にはしっかり出たから、懇談に残らないで娘と帰ろうかな…。」そんなことも思っていました。

役員決めの話し合いは、難航しました。立候補する人はなく、もちろん私も手を挙げる勇気はなく、下を向いてしまいました。

教室の中がしーんとなりました。「くじ引きをしようか？」そんな言葉がとうとう聞こえるようになりました。

その時、「私にやらせてください。」と一人のお母さんが手を挙げました。「私は一人で子育てしています。そして子どもは一人っ子です。仕事もしていますし、学校のこともPTA活動のこともよく分からない私ですが、こんな私でよければ役員をさせてください。役員をしながら、子どものこと、学校のことをもっと知って、皆さんとも仲良くなりたいです。」

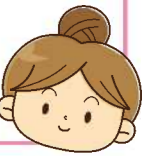
教室には、「ほーおー」「わーおー」という歓声のようなため息のような、明るい声が響きました。そして大きな拍手で包まれたのです。「6年間で1回はせんとなね。」「私にもできることがあるかな。」「役員になったら、知り合いが増えて楽しいかも。」「…。そんな言葉が交わされていく中、やがて全ての役員が立候補によって決まり、その後の学級懇談会も和やかな雰囲気です。

この日以降、保護者同士のつながりがしっかりとできたのは言うまでもありません。「できる時に、できる人が、できることをやろうよ」これが、私たちのPTA活動の合言葉です。この言葉のとおり、無理をしないで助け合う、本当によい子育て仲間になっていくことができました。学年が上がり、クラスも変わりましたが、子育て仲間として、また近所に住んでる友達としての付き合いは、長く続いていきました。親同士のつながりがしっかりとできたこの学年は、子ども同士も仲がよく、本音で話し合える仲間として学校生活を送ることができたような気がします。

(高校1年生 保護者)

ワーク 2

あなたが初めて参加する集まりに緊張して行った時、うれしかったこと(言われたこと、してもらったこと)を書いてみましょう。



ワーク 3

初めてPTAに参加して不安な気持ちでいたエピソードのお母さんに、あなたならどんな言葉を掛けますか。



ワーク 4

幼稚園(保育所)からのPTA活動の中で、参加してよかったと思う経験は何ですか。

ふりかえり

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

親も子ども自身を大切に

— 自己肯定感を高くするために —

ワーク 1 こんな活動をしてみましょう。

1 ほめほめじゃんけん

- (1) 2人組みをつくって、じゃんけんをします。
- (2) 勝った人から「ほめ言葉」をプレゼント!
- (3) 負けた人のよいところを見つけ、何か一言ほめてあげましょう。
- (4) (1)～(3)を繰り返して、お互いにほめ合しましょう。

※初対面の人同士でも、ちょっとお互いを観察して、よいところを見つけてください。

※お互いに自分が呼んでほしい名前を教え、その名前呼びましょう。



2 (名前:) がほめられてうれしかったことを書きましょう。

3 あなた自身が思っている「自分の長所」「好きなところ」「得意なこと」を紹介しましょう。上記2の欄に書いていないことを、ぜひここで紹介してください。

4 あなたが今、頑張っていることは何ですか。



☆「ほめほめじゃんけん」は、家庭でお子さんとしてみるのもおすすめです。親子でお互いのよいところや、日頃の生活の中で感謝していることを伝え合うきっかけづくりになります。

ワーク 2 子どもとの最近の生活を振り返ってみましょう。

● 子どもが今、頑張っていることは?

● 最近どんなことで、子どもをほめましたか? (ほめてあげたいですか?)

ワーク 3 子どものことで気になっていることは何ですか。また、どんな言葉で(どうやって)あなたは励ましたいですか。



「自分を大切に思う気持ち」

子どもにとって、自己肯定感(セルフエスティーム)を持つことは大切です。

自己肯定感とは「自分は大切な存在なんだ」「自分はかけがえのない存在なんだ」と思う感情。自分の苦手なことや短所も含めて、ありのままの自分を肯定する感情です。自己肯定感の高い子どもは、自分に自信があり、自然に自分らしい行動ができます。何かに挑戦したり、失敗してもあきらめないで挑戦することができます。また、気持ちに余裕があるので、周りの人に優しく接することができます、友達とも仲良くできるのです。

この子どもの自己肯定感を高めるには2つのポイントがあります。

一つ目は小さい頃からの親からの愛情。親から愛され、かわいがられて育った子どもは、人から愛されている実感を持って育ちます。愛されている実感は、心の安定と周りの人への優しさを育みます。

二つ目は日常生活の中で何かに挑戦し、成功したりその努力をほめられたことから得る自信。「やればできる!」「失敗してもまた挑戦してできればいいじゃないか!」と思う気持ちを小さいころに持つことは、子どもの自信を育てます。

どちらも親子の関わりの中でつくられる大切なもの。親からの励ましの言葉、「大好きだよ。」という言葉や態度でのメッセージ、そして、小さなことでもできたことをほめられるうれしさ。これらによって子どもの自己肯定感、自然と高められていくのでしょうか。

そしてもう一つ、大事なことがあります。それは親自身が自己肯定感を持っていることです。「自分は大切な存在なんだ」と思う自己肯定感を持っている親は、子どもに愛情を注ぎ、成長を喜び、失敗も認め、可能性に期待しながら、子育てしていきます。この日常的な触れ合いをとおして、子どもの自己肯定感は自然に育っていくのです。
(公務員)

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

ふりかえり

4 親からの言葉掛け

エピソード 1

「今日は？」と「今日も？」で弾む会話

あきおさんのお母さんは話し掛け名人。毎日夕ご飯の支度をしながら、あきおさんからその日一日あったことを聞いていきます。「今日は学校楽しかった?」「今日は誰と遊んだの?」「今日は何かおもしろいことがあった?先生はどんなお話をしてくれたのかな?」

あきおさんはお母さんの問いかけに答えながら、自分からもその日楽しかったことやおもしろかったことを話します。お母さんはフルタイムの仕事をしているので、ゆっくりあきおさんと話をする時間が取れない時もありますが、この夕ご飯の支度をしながらの会話の時間は大切にしています。

お母さんは時々、こんな風にも話します。

- 「あっ! 今日何かいいことあったんだ。うれしそうだね。」
- 「今日もはるとさんと遊んだの! いい友達ができたね。」
- 「今日もおもしろいことがあったんだね。教えてくれてありがとう。」
- 「今日も勉強が進んだんだね。お母さんそんなこと知らなかった!すごいね。」
- 「〇〇おばちゃんに今日、とってもいいごあいさつができたね。」

「今日は」で話し掛けたことを、何日かすると「今日も」で話し掛けるお母さん。このことによって、あきおさんは自分が話したことをお母さんが聞きとめ、覚えていてくれることに安心して、自然と会話が弾むようになったそうです。

あきおさんはおとなしい性格で、自分からお母さんに話し掛けることは幼稚園のころはあまりありませんでした。小学校に入学してあきおさんの様子が気になっていたお母さんは、自分から話し掛けるようにしたのです。

あきおさんはもう小学校4年生ですが、お母さんに自分から学校のできごとを話したり相談をしたりしています。小さいころからの習慣が、大きくなって変わらずに残っています。親子のコミュニケーションと関わりは、子どもの心の安定と安心感につながるのですね。



ワーク 1 一日の中で、どんな時に子どもと話していますか。また、今よく話題にすることは何ですか。

● どんな時

● どんな話題

ワーク 2 子どもと話す時間をつくるために工夫していることはありますか。

エピソード 2

エピソード1の続きです

ある日のことです。

あきおさんは、夕方遅く、ふんぶん怒って帰って来ました。夕方5時30分には家に帰り着くように約束しているのですが、この日は6時を過ぎて仕事から帰ったお母さんが待っていても、なかなか帰ってきません。お母さんは心配すると同時に、「遊びに夢中で時間を忘れているのかもしれない。」とも思い、帰ってきたら注意をしようと待ち構えていました。

ところが、家に入ってきたあきおさんの表情があまりに険しいのでびっくりしてしまい、注意するよりも先に「どうしたの? 怖い顔をしているよ。」と言いました。すると、あきおさんはその日の放課後にあったことを一気に話し始めました。

A

自分の話をお母さんにしっかり聞いてもらえたからでしょうか。話した後、あきおさんはすっかり元のとおり穏やかな表情になりました。そして、こんなことが次は起こらないように自分も気をつけるようにすると言ったのです。「向こうから『ごめんなさい』って言ったから、もういいよ。僕も悪かったかもしれないから、明日友達と話してみるよ。お母さんも気にしないでね。」あきおさんのこの言葉を聞いて、ほっと安心したお母さんでした。



ワーク 3

エピソード2の A で、あきおさんはどんな話をお母さんにしたのでしょうか? また、お母さんはその時どんなことを言ったのでしょうか。



あきおさん



おかあさん



ワーク 4

あなたの言葉掛けをチェックしてみましょう。

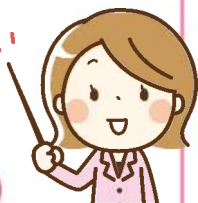
NGワード (子どものやる気を止める言葉)

ちゃんとしなさい。	
早くしなさい。	
どうしてできないの?	
また人のせいにして!	
走ったらだめよ。	
〇〇さんはできているのに...	
何やってんの!	
そんなことをする子は嫌いだよ。	

GOODワード (子どもを伸ばす言葉)

自分でできるかな? やってみよう!	
あと〇分でやってみよう。きっとできるよ。	
もう1回やってみよう。もう一息だよ。	
言いたいことはわかるよ、でも〇〇だね。	
危ないから歩こうね。	
ここまでできたから、もう少し頑張ろうね。	
どうしたの? 手伝おうか?	
それはやめたほうがいいよ。	

あなたはどのNGワード・Goodワードを言っていますか?



Goodワードを大分弁にしてみましょう!

親の言葉掛け次第で、子どものやる気や頑張りが変わります。「早く勉強しなさい! もう何時だと思ってるの!」ではなく、「何時から勉強するの? 今日はちょっと遅いみたいね。」と事実を感情的にならずに伝えたいですね。

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

ふりかえり

5

早寝・早起き・朝ごはん



エピソード



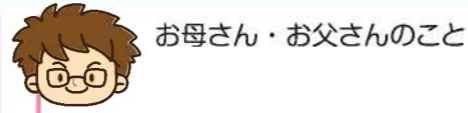
小学1年生のなつみさんは、お父さんと遊ぶのが大好きです。でも、お父さんは仕事のために、平日は9時過ぎまで帰らないことが多いです。なつみさんは毎晩、お父さんが帰るまでテレビを見ながら待っています。お父さんが帰ってくると、一緒におしゃべりしたり遊んだりして、ついはいやでしまい、寝る時間が遅くなりがちです。

そのせいか、なつみさんは朝なかなか目が覚めません。眠たいまま食卓に着くので朝食にも時間がかかり、しっかり全部食べられないこともあります。小学校には遅刻しないように頑張っていますが、遅れそうになってお母さんに車で送ってもらうこともあります。

学校でも午前中はなんだか元気がなく、ぼーっとしていることがあるようです。担任の先生から、「朝ごはんをしっかり食べて、元気よくもう少し早く登校できると、午前中の学習にもしっかり取り組めると思うのですが…」と言われていました。

(資料：グラフ1・2参照)

ワーク1 エピソードを読んで気になることは何ですか。



ワーク2 あなたがなつみさんのお母さん・お父さんだったら、なつみさんの生活をこれからどうしたいですか？

● 時間のこと (就寝・起床)

● 朝ごはんのこと

コラム

私たちの身体は、寝ている間もエネルギーを使っています。そのため、朝にはエネルギーや、エネルギーをつくるために必要な栄養素が少なくなっています。朝食により、就寝中に使われたエネルギーや栄養素と、午前中に使うためのエネルギーや栄養素を補充することができます。

特に、脳で使われるエネルギーはブドウ糖 (ご飯、芋、パン、砂糖等から摂取) からのみ補充されますが、体内に蓄えられているブドウ糖は、約12時間分しかありません。朝食を欠食すると、前日の夕食から昼食まで12時間以上供給がないこととなります。朝食の摂取状況が学力と関連することが言われています (グラフ3参照) が、脳にしっかりとエネルギーが供給されているか否かが関係しているのかもしれませんが。朝食でブドウ糖をはじめとする様々な栄養素を補給し、午前中、しっかり活動できる状態を作りましょう。

(出典) 文部科学省「家庭で・地域で・学校でみんなで早寝早起き朝ごはん - 子どもの生活リズム向上ハンドブック」

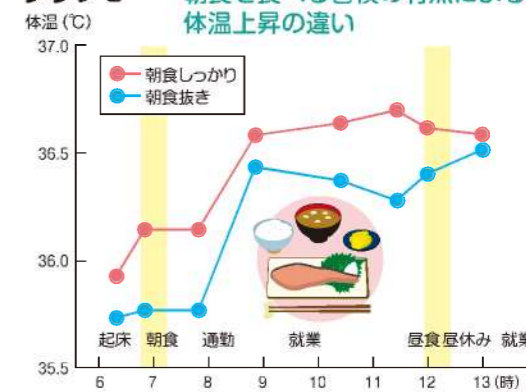
資料

グラフ1 小児期に必要な標準睡眠時間



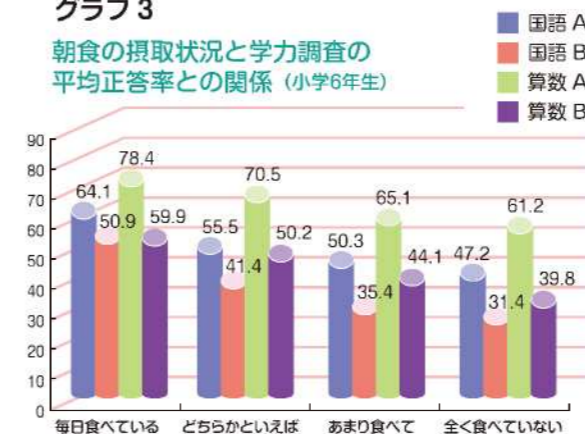
文部科学省「中高生を中心とした子供の生活習慣づくりに関する検討委員会」における審議の整理より (出典) 成田奈緒子「早起きリズムで脳を育てる脳・こころ・からだの正三角形」(早稲田社)

グラフ2 朝食を食べる習慣の有無による体温上昇の違い



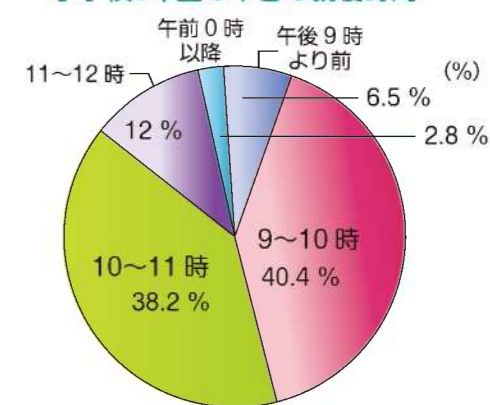
文部科学省「子どもの生活リズム向上ハンドブック」
【出典】鈴木正成「ジュニアのためのスポーツ栄養学」
(食糧庁米流通消費対策室企画・制作)

グラフ3 朝食の摂取状況と学力調査の平均正答率との関係 (小学6年生)



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」(平成22年度)

グラフ4 小学校6年生の平日の就寝時間



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」(平成25年度)

● グラフを見て気づいたことを出し合しましょう。

ワーク3 「早寝・早起き・朝ごはん」の実践に向けて、あなたの家庭で取り組みたいことは何ですか。(アイデアを出し合しましょう)

6 家庭での学習習慣づくり

エピソード

はるこさんは算数が苦手です。2年生の今は、時計の読み方の勉強や掛け算を覚えるのに苦労しています。

「お母さん、「1」のところは5分で、「2」のところはどうして10分になるの？」
「3の段と7の段が覚えられないよう！」こんなことを言っは、お母さんを困らせています。

はるこさんは毎日学校が終わると、宿題をしないまま近所の友達の家遊びに行きます。外で遊ぶのが大好きなはるこさんは、友達とボール遊びをしたり公園に行ったりしてしてたくたになつて帰ってきます。遊び疲れてしまつて、お風呂に入りご飯を食べると、もう眠たくなつてしまひます。机について宿題のノートを開いてみますが、なかなかはかどりません。だんだん分からないところも増えてきてしまひそうでお母さんは心配で、そばについて教えるのですが、はるこさんは宿題ができなくても気にしていません。宿題ができないまま、学校に行ってしまうこともよくあります。

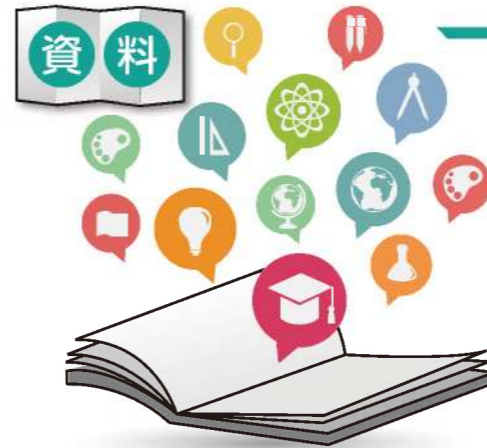
ワーク 1 エピソードを読み、感想や気になることを発表しましょう。



ワーク 2 あなたがはるこさんのお母さんだったらこれからどんな対応をしますか？ また、どんな言葉を掛けようと思ひますか。

● 対応 (すること)

● 言葉 (言うこと)



小学校生活を楽しくするために

家庭学習は、学校で学習したことをしっかりと身につけるために大切なものです。家庭学習に取り組むことは、子どもが自分から学ぶ姿勢を自然に身につけていくことにつながり、意欲的に学習に取り組めるようになっていきます。

小学生のうちに机に向かう習慣が後々の家庭学習によい影響を与えます。今がチャンスです！

1 家庭学習の習慣化に向けて

- (1) 家庭学習の時間を決めましよう。(「帰宅後すぐにする」「夕食前にする」「夕食後にする」など)
- (2) 担任の先生が出す「宿題」を最初にさせましよう。
- (3) 時間が余つたら、国語の教科書の音読、漢字の書き取り、算数の教科書の問題をもう一回解くなどの勉強をさせましよう。
- (4) どうしても勉強に飽きてしまふときは、机について読書や絵を書いたりしてもよいでしょう。
- (5) 勉強が終わつたら、次の日の用意をさせましよう。

2 家庭学習のチェックリスト 子ども編

項目	チェック
1 家庭学習の時間を決めて勉強している	
2 自分の机や台所の食卓など、机について勉強している	
3 学習時間いっぱい勉強している	
4 テレビを消して勉強している	
5 自分から勉強を始めている	

《チェックの仕方》
○ …そう思う
× …そう思わない
△ …分からない

3 家庭学習のチェックリスト 親編

項目	チェック
1 子どもが家庭学習をする時間や場所を知っている	
2 子どもの音読を聞いたり、勉強している様子を見たりしている	
3 子どもが勉強で分からないところはないか確認している	
4 子どもの学用品の使い方や、ノートに書いていることを確認している	
5 勉強で子どもが困っているときは、教えたり励ましたりしている	

《チェックの仕方》
○ …そう思う
× …そう思わない
△ …分からない

時間の目安 どれくらいの時間、家庭学習をしていけばいいのかは、子どもの学年や状況に応じて家庭で決めていましよう。親子で話し合つて決めて、目標の時間いっぱい取り組むように励ますことが大切です。小学生の学習時間の目安として、【学年×10~15分】【学年×10分+10分】を示している例もあります。
◆低学年 … 20分前後かそれ以上 ◆中学年 … 40分前後かそれ以上 ◆高学年 … 1時間前後かそれ以上

ふりかえり

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

7 子どもの遊びについて考えてみましょう



ワーク1 子どものころのあなたの遊びについて振り返り、あなたの子どもの遊びと比べてみましょう。



あなた(親)

- 大好きだった遊び
- よく遊びに行ったところ
- 大事にしていたおもちゃ

- 遊びの時間(平日の放課後)
- 一緒に遊んだ人



- 忘れられない思い出

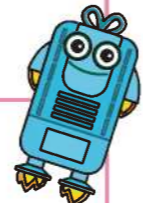
- 遊びをとおして学んだこと・得たもの



子ども

- 好きな遊び
- よく遊びに行くところ
- 大事なおもちゃ

- 遊ぶ時間
- 一緒に遊ぶ人



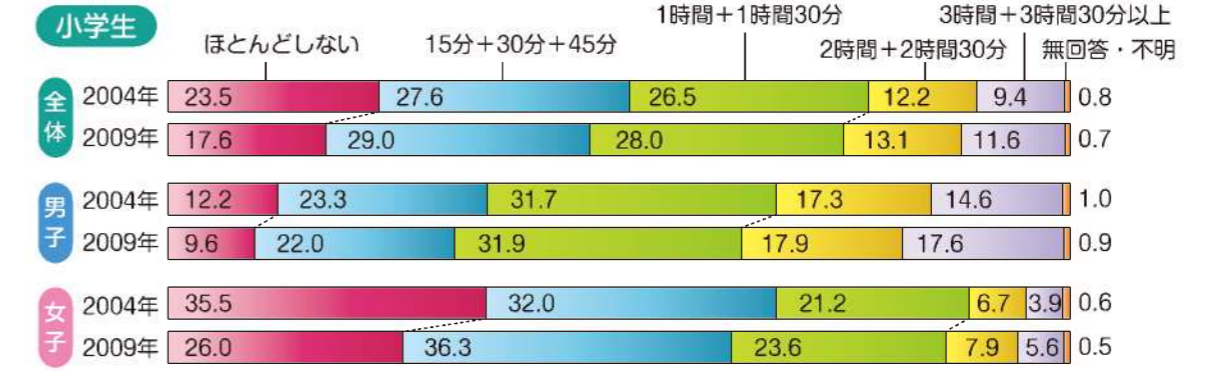
資料



ゲームをする子どもが増加

テレビゲームを「ほとんどしない」子どもが減っています。特に女子では、「ほとんどしない」の比率が、小学生で35.5%から26.0%、中学生で55.0%から34.8%、高校生で80.6%から57.5%と、大きく減少し、テレビゲームを日常的にする女子が増えてきています。

テレビゲームをする時間(経年・性別比較)



資料：第2回子ども生活実態基本調査(ヘネッセ教育総合研究所)



「遊びの時間の大切さ - 子どもの可能性を伸ばす遊び -」

遊びは子どもの生活の中で欠かすことのできない要素の一つです。特に子どもが小さい間は、日常生活の中で遊びは特別なものではなく、あって当たり前のもの、日常生活そのものです。

小学校に入学してからも子どもは遊びをとおして様々な体験をします。友達をつくり、興味のあることに出会い、自分の得意なことを知ります。言葉も獲得し、自分の物(おもちゃや道具など)への愛着や友だちへの思いやりも持ち、我慢することも覚え、自分や社会についての新しい発見をしていきます。運動能力や体力の向上、そして精神的な成長も期待できるのが遊びです。つまり、遊びは子どもの成長を促す上で、大切な「学習」そのものなのです。

しかし最近では、放課後の小学生の過ごし方も様々です。家に帰って自宅で過ごす子ども、宿題もそこそこに友だちと遊びに行く子ども、放課後児童クラブで異年齢の子ども同士で遊んで過ごす子ども、公民館の子ども教室や習い事に通う子ども、野球やサッカーなどのスポーツ少年団の練習に行く子ども…。

早期教育や補充学習の必要性が盛んに言われるようになり、遊び以外の学習やスポーツに励む子どもが増えつつあるのが現実です。けれども、自由に遊べる時間を子どもに与え、人と関わり合いながら遊ぶ時間を子どもが持っているかということ、大人はしっかりと見ていくことが必要です。(元幼稚園 教諭)

ワーク2 親子で一緒にしたい遊びは何ですか。



この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

.....

.....

8 体験活動のすすめ

ワーク 1

子どもたちが活動しているイラストを見て、ふきだしに言葉を書いてみましょう。



ワーク 2

子どもたちはこのような活動をとおして、どんなことを学ぶでしょうか。



「いろんなことにチャレンジしよう！ - 体験のすすめ -」

昭和の時代に生まれた親の世代と、平成の世に生まれ育った今の子どもたちとは、生活環境や生活のスタイルが随分と変化してきています。子どもの遊びや時間の使い方変わり、「子ども」として生きている時間は同じなのですが、その内容はかなり違ってきているようです。社会が豊かになり便利になったことがいろいろとあります。しかし、便利になってよかったことがある反面、そのことによって失ってしまったものもあるのではないのでしょうか。子どもは小学校入学をきっかけに行動範囲が広がり、いろいろな人と出会いがあります。友だちができ、放課後の時間や友達と過ごす時間の中で経験することやできることがどんどん増えていきます。今が、チャンスです。この機会に、子どもの興味・関心そして可能性を広げることができる「生活体験」や「自然体験」を子どもに積極的に経験させてみてはどうでしょうか。きっと様々な経験をとおして多くのことを学び、子どもの成長は自然に促されることでしょう。

(小学3年生 保護者)

ワーク 3

あなたはどんな「生活体験」「自然体験」を子どもが小学生の間に経験させたいですか。

● 生活体験（日常生活で経験できること）

● 自然体験（海や山など野外で経験できること）

ワーク 4

ワーク 3 で考えたことの中で、今子どもと一緒にやってみたいことを選び、具体的な取り組みを考えてみましょう。



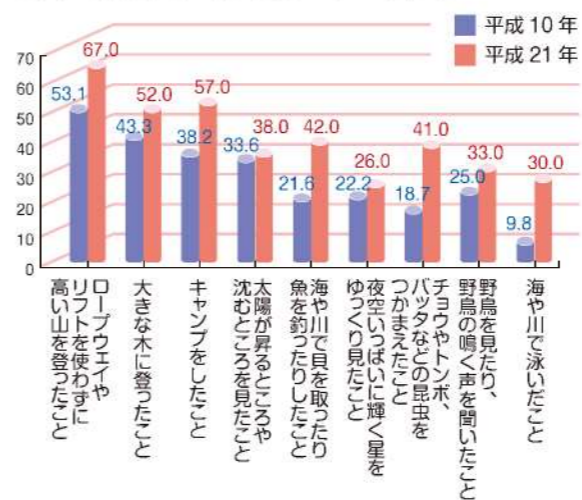
- 何を？
- いつ？
- どこで？
- 誰と？
- どんなふうに？

資料

グラフ 1

自然体験をほとんどしたことがない小・中学生の割合

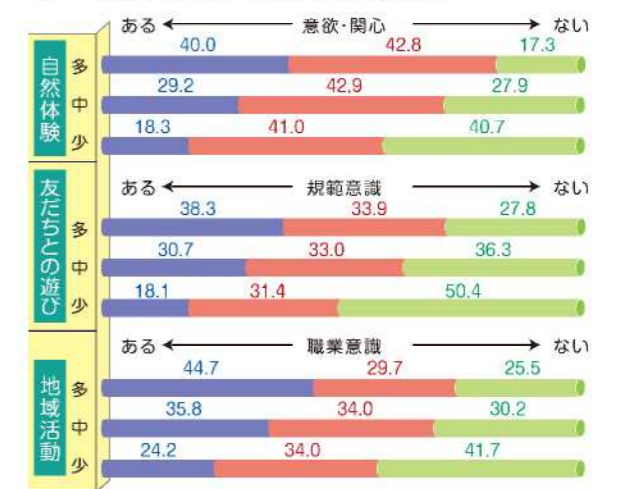
(出典) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (2010) 「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査 (平成 21 年度調査)」



グラフ 2

子どものころの体験と大人になってからの意欲・関心等との関係

(出典) 独立行政法人国立青少年教育振興機構 (2011) 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究 (平成 22 年度調査)」



この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

ふりかえり

9 絵本の読み聞かせ、やってみませんか？

— 絵本は心の栄養 —



「絵本の読み聞かせのすすめ」



絵本は心の栄養になる大切なものです。

子どもの心に寄り添い、子どもの心を励ましていく、そんな力が絵本にはあります。美しい絵を見て子どもの心は素直に感動することを覚えます。そして、優れた絵本は洗練された美しい日本語によってつづられているので、絵本をとおして子どもは自然に言葉の力を身につけていくことができます。

また、親から子どもへの絵本の読み聞かせは、子どもとのコミュニケーションを育む一つのきっかけにもなります。テレビを消して、静かに絵本を読んでみませんか？ そして、親子一緒に絵本の世界に飛び込んでみましょう。そこには子どもの目がキラキラ輝きだす魔法の瞬間が、きっとたくさんあります。

子どもは気に入った本は何度も読んでほしいとせがみます。その時には、何度でも読んであげてください。

ページをめくりながらお話の世界を楽しみ、絵を見て喜び、そして声から言葉の響きのおもしろさも感じています。上手に読もうと、構える必要はありません。長い時間でなくても、一冊でもいいです。あなたの声で子どもに絵本のおもしろさを届けてみましょう。

あなたが忙しくて、ゆっくり絵本を読んであげられないときは、ほかの人に読んでもらいましょう。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばちゃん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、そして子ども同士で…。いろんな人の声で読んでもらうことによって、読み聞かせの魅力や楽しさも膨らんでいくでしょう。

そして、あなた自身も絵本の世界を楽しんでください。きっと、子どもに伝わりますよ。

(読み聞かせボランティア)

ワーク 1 絵本の読み聞かせについて情報を交換しましょう。

● いつ読むの？	● 誰が読むの？
● どんなふうに読むの？ (抱っこして、向き合って、横並びでなど)	● どれくらい読むの？ (時間、冊数など)
● どんな本を読んでいるの？	● その時の子どもの様子は？

ワーク 2 絵本の読み聞かせのよさは何でしょう。



資料

「どんな本を読んだらいいの？」

～ 本選びに困ったときは図書館へ行ってみましょう！ ～



大分県立図書館推薦図書リストの紹介

大分県立図書館では、子どもによい本を届けるため、子どもの発達段階に応じた推薦図書リスト（ブックリスト）を作成しています。現在までに「ようこそ！絵本の世界へ（乳幼児向け）」「ひろげよう！本の世界（小学校1・2年生向け）」「楽しもう！本の世界を（小学校3・4年生向け）」ほか全部で6種類の推薦図書リストがあり、各リストに掲載された本は県立図書館の子ども室に特設コーナーを設けて貸し出しをしています。読み聞かせをする絵本や子どもに与える本を選ぶときに、ぜひ参考にしてみてください。

※「ひろげよう！本の世界（小学校1・2年生向け）」の推薦図書リストが59ページ～60ページに掲載しています。

「絵本から物語への橋渡しを—小学校1、2年生にすすめる本について」

(大分県立図書館 推薦図書リスト2より)

小学校に入学すると、文字を読めるようになります。でも、文字が読めるからといって、自分で物語を読んで楽しめるほど、読む力は発達していません。読む力が聞く力に追いつくまでには、まだまだ大人の手助けが必要です。「もう読めるんだから、自分で読みなさい。」と言わないで、読んであげてください。子どもたちには本をまるごと読んで聞かせて、物語の本がどんなにおもしろいものかということ、実感してもらう必要があります。

このブックリストにのっている本は、大人が読み聞かせてから、子どもが自分でも読むという前提で選ばれています。絵本から物語の本へと移るこの時期に大人が上手に橋渡しをして、「本の世界」をひろげてあげてください。



「母からの贈り物」

私の家は両親とも忙しく、妹と二人で毎日仕事から帰ってくる両親を待ついわゆる「かぎっ子」でした。私が小学校2年生になると、母の帰宅が7時を過ぎることが多くなりました。あまり帰りが遅くなりそうなときは、子ども二人に留守番させるのは心配だったので、母は近所の方に親が帰るまでの間預かってくれるようお願いし、私たち姉妹はそのお宅で親の帰りを待つようになりました。

親戚でもないのに小学生の子どもを預かってくれる親切な近所の方は、私たち姉妹に優しく、親の帰りを待つ寂しさを感じないようにご飯を食べさせてくれたり遊んでくれたりしました。テレビを見てもよかったのですが、母は私たちに本を買い与え、できるだけ迷惑をかけないように静かに本を読んで過ごすようにさせました。時間をかけて読む本がいいと思ったのでしょうか。母が買ってくれる本は、文章が多く挿絵の少ない児童書でした。

本は小学生の私が軽々と持てるくらい小さいものでした。けれども、本の中に描かれている物語は、舞台となる場所、ストーリー、登場人物、時代は様々で、親の帰りを待っている私の寂しさや待つ時間の長さを忘れさせる魅力にあふれていました。

本を読んでいると、その家の高校生のお姉さんが一緒に読んでくれたり、「字の多い本を読んで、えらいね。」とほめてくれたりして、うれしかったです。親を待つために親から持たされた本ですが、これがきっかけとなり、私は読書が好きになっていったような気がします。

(高校2年生 保護者)

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

ふりかえり

10 子どものマナーやルールは家庭から



「しつけの極意」

子どもをしっかりとしつけ、一人前にすることが親の役目と構えていませんか。ある老人福祉センターを訪問した時、認知症の方から強い衝撃を受け、学んだことをお話ししましょう。

思い通りにならないことがあるとヘルパーさんを命令口調で怒鳴り散らす人、ニコニコと笑みを浮かべ穏やかで温かな優しさがにじみ出てくる人、「ありがとうございます。」「助かりますよ。」と感謝の言葉が自然と出てくる人、様々でした。年老いて自分をよく見せようと飾る欲も気力も無くなった時、人間は生きてきた日々の姿そのままが残ってしまうものなのです。

親や大人たちは、「これはしつけの一環」と言いながら、言葉や態度、そして時には厳しいまなざしなどで子どもを教え、しつけをしていると考えがちです。しかし、本当は、人や物に対して持っている考え方や、毎日の生活で使う言葉や話す時の口調、まなざし、子どもに触れ合う姿が、しつけになっているのではないのでしょうか。社会生活が未熟な子どもたちは、信頼しきったまっすぐな目で親のすべてを見て、模倣しているのです。子どもの持つ“ありのままに”受け入れる力には、怖ささえ感じます。

だから、究極のしつけとは、親自身が生涯かけて子育てをする中で、「子どもは鏡に映っている自分だ。」と感じて、よりよい親、大人、人間へと成長していく営みであるということ、私たちは謙虚に受け止め、悟りたいものです。

老人福祉センターでお会いした人のように、笑顔のなかに穏やかさと温かさがにじみ出るような人柄は、幼いころに身につけて、その人の生涯ずっと残っていくものなのでしょう。

多くの人を愛し、尊び、受け入れ、支えあう態度や言葉が身についた美しい生き方をして、生きる幸せを感じる生涯を、大人がまず作りましょう。そして、子どもに伝えましょう。

この生き方の中にあるマナーやルールこそ、大人が子どもへ残すことのできる最大の財産ではないのでしょうか。



ワーク 1 あなたが考える「よい大人」の条件は何ですか。3つ考えて、その理由も書いてみましょう。

1	1の理由
2	2の理由
3	3の理由

ワーク 2

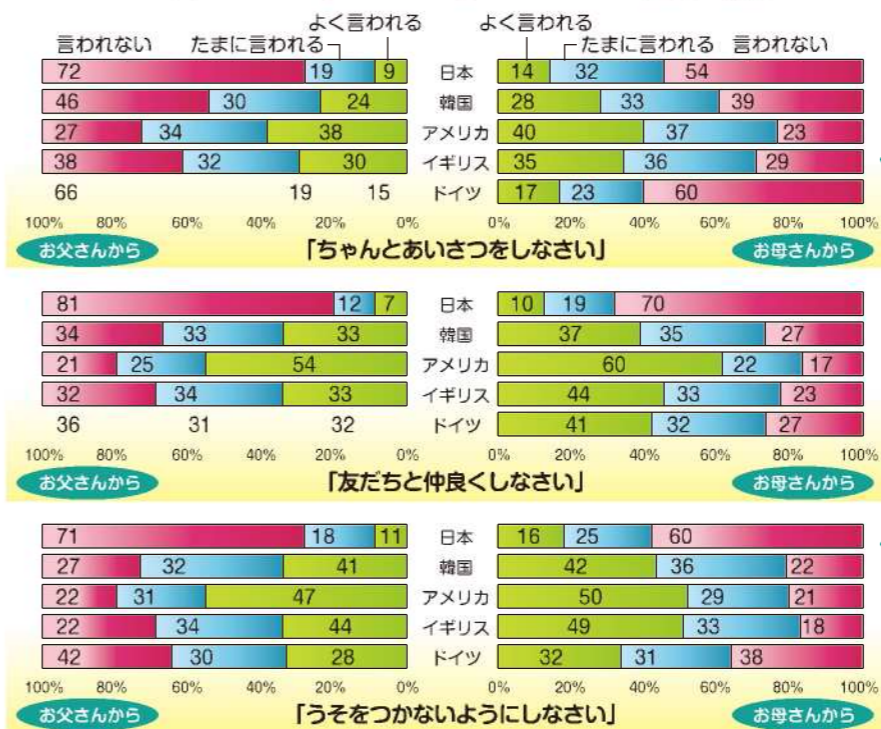
日常生活の中で、親として、また地域の大人として改めたいと思うことについて話し合みましょう。

ワーク 3

今、子どもに身につけさせたいマナーは何でしょう。

資料

お父さんやお母さんから言われること（国際比較）



日本の子どもは生活規範やマナーについて、保護者から直接つけられることが少ないようです。

時と場合に応じて、保護者から直接子どもに注意をすることも必要です。

※調査対象：小学5年生、中学2年生
資料：平成12年3月 子どもの体験活動研究会「子どもの体験活動等に関する国際比較調査」より

この学習プログラムをとおして気づいたことは何ですか。

ふりかえり
